

安全・安心

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

＜主な派遣実績＞	隊員数 (人)	のべ人数 (人・日)
R1年 6月下旬からの大雨	11	55
R1年 8月の前線に伴う大雨	26	153
R1年 台風第19号	239	1,486
R2年 7月豪雨	127	909
R2年 台風第10号	9	42
R2年 鳥インフルエンザ	3	4
R3年 1月7日大雪	45	79
R3年 CSF(豚熱)	1	1



道路の被災状況調査
【令和2年7月豪雨】

浸水区域の排水活動
【令和2年7月豪雨】

レーザー測距機による調査
【令和2年7月豪雨】



漂流物の除去支援
【令和2年7月豪雨】

リエゾンによる被害情報収集
【令和2年台風10号】

照明車による現地活動支援
【令和2年鳥インフルエンザ】

ダンプトラックによる除雪支援
【令和3年1月7日大雪】

南海トラフの巨大地震・津波等に対する紀伊半島沿岸部における道路啓開計画

【直轄国道の被害想定】

	浸水延長	橋梁の 重大な損傷	海岸擁壁の 重大な損傷	ガレキの 堆積
和歌山県	約100km	53橋	約20km	約30km

和歌山・紀南河川国道事務所調べ 平成26年5月現在



【道路啓開計画】

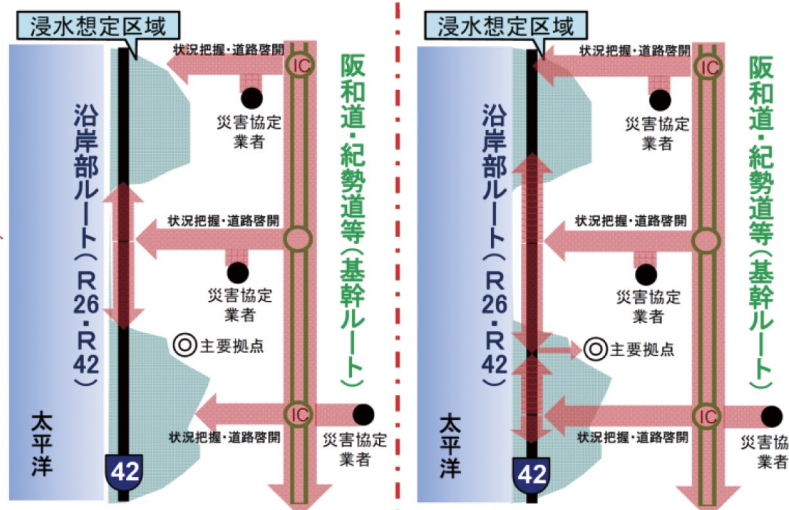
- 「和歌山県道路啓開計画」では、津波被害想定をもとに、緊急輸送道路ネットワーク等を考慮し、優先的に啓開すべき道路を『啓開ルート』として選定
- 人命救助を目指した救助・救援ルートを確保するため『道路啓開』の段階目標を設定

【STEP1⇒発災後、24時間以内完了目標】

基幹ルート、及び沿岸部への進出ルート等(浸水想定区域外)を確保

【STEP2⇒発災後、48時間以内完了目標】

津波警報解除後、主要拠点(市役所等)への進出ルートを確保

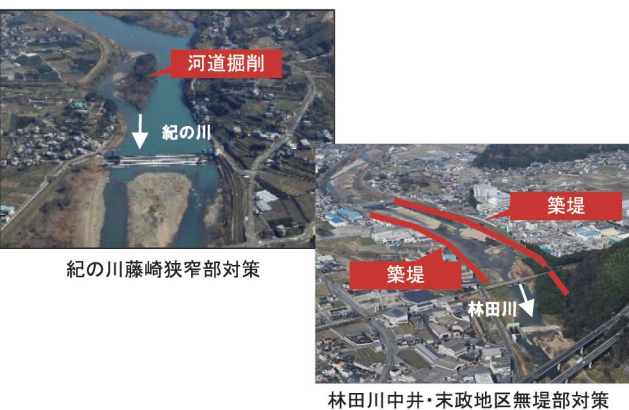


※ 48時間以降も引き続き道路啓開を実施

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策

○気候変動を見据えた府省庁・官民連携による「流域治水」等の推進

・流域治水のうち河川管理者が実施する対策として、遊水地、築堤、河道掘削、ダム建設等を重点的・集中的に実施し、事前防災対策を加速化する。



紀の川 藤崎狭窄部対策

林田川中井・末政地区無堤部対策

○高架区間等の緊急避難場所としての活用

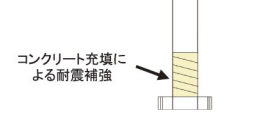
・予測浸水深よりも高い位置に整備されている直轄道路の高架区間等を緊急避難場所として活用するため、高架橋歩道部への接続階段の耐震化を実施し、地震時の津波や洪水時の緊急避難場所として活用を図る。



【代表事例】

- ◆ 安治川橋：大阪市港区弁天～此花区春日日出南
- ◆ 正蓮寺川橋：大阪市此花区春日日出北～伝法
- ◆ 整備内容：高架橋歩道部・接続階段の耐震化

【対策イメージ】



【現状】安治川橋



階段部の耐震化を実施し、地震・津波時の緊急避難経路として活用

新たな取り組み

インフラDXの推進 ～これまで働き方の一変させる変革～

【インフラ分野のDX】

様々なインフラデータをデジタル化し、自由に活用できる環境が整うことにより、国民への様々なサービスの提供が可能となり、設計から維持管理が高度化するほか、業界、職員の働き方改革が進み、生産性向上につながります。

近畿地方整備局では、これまで生産性向上として取り組んできたi-Constructionをより深化させるため、インフラDXを推進していきます。

＞DXの概念

進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること

「行動」のDX

どこでも可能な現場確認



「知識・経験」のDX

誰でもすぐに現場で活躍

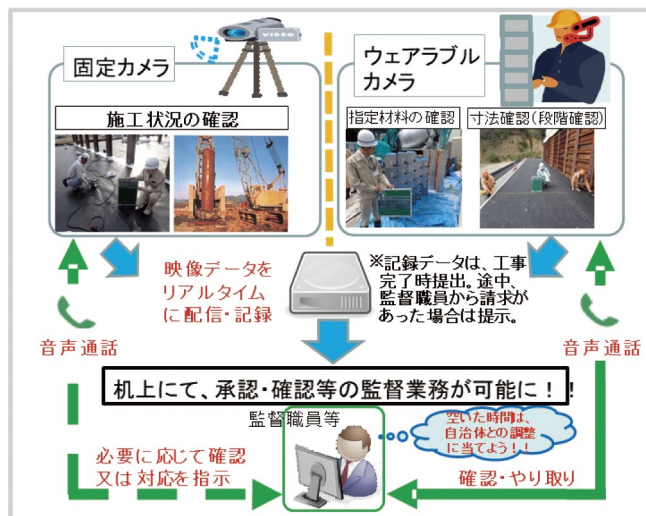


「モノ」のDX

誰もが簡単に図面を理解

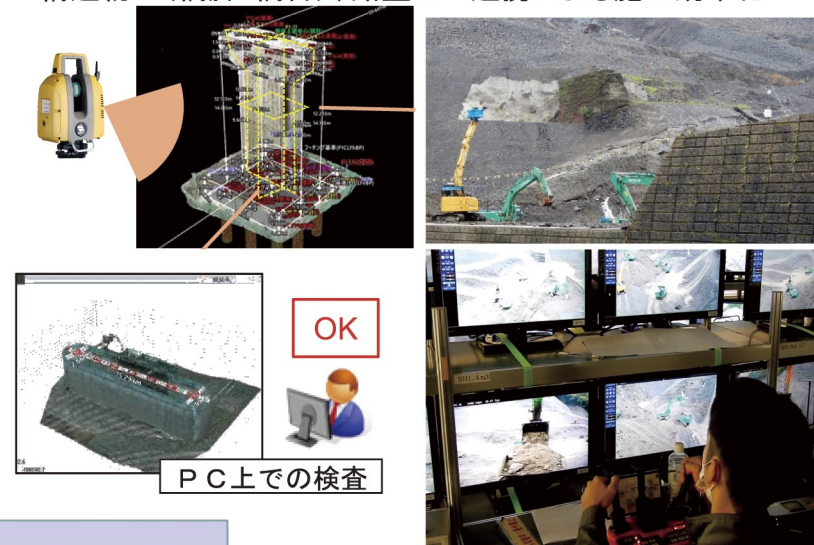


行動のDX～遠隔臨場を活用した監督・検査対体制～



知識・経験のDX～ICT活用の加速による生産性向上～

- 工種の拡大
構造物工(橋脚・橋台)、路盤工
- 無人化施工とICT施工
連携による施工効率化へ



モノのDX～BIM/CIMを活用した建設生産システムの効率化・高度化～

